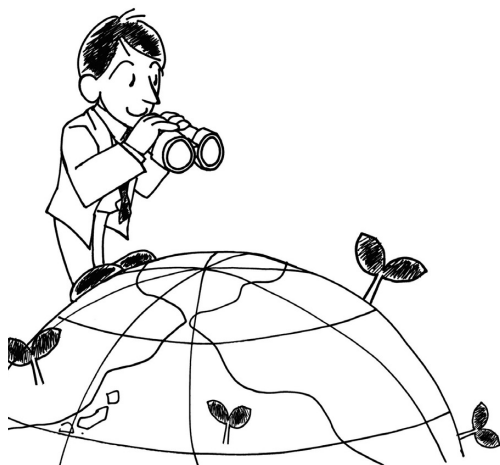


セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド

追加型投信/内外/資産複合



交付運用報告書

第11期（決算日 2017年12月11日）

（作成対象期間 2016年12月13日～2017年12月11日）

第11期末(2017年12月11日)	
基準価額	14,667円
純資産総額	153,979百万円
第11期	
騰落率	11.3%
分配金(税込)合計	-円

- ・騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。
- ・純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧・ダウンロードいただけます。

<閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンドの紹介」⇒「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」⇒「運用状況・レポート」⇒「運用報告書」

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者の皆さまへ

平素は「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」に格別のご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第11期決算を行いましたので、当期の運用状況をご報告いたします。

当ファンドは、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。当期間も変わらず、この方針に基づき運用を行って参りましたことを合わせてご報告申し上げます。

今後も、皆さまの長期資産形成のお役に立てるよう、引き続き努めて参りますので、より一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



セゾン投信

■お問い合わせ先

セゾン投信株式会社 お客さま窓口
〒170-6037 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 37F
【ホームページ】 <https://www.saison-am.co.jp>
【電話番号】 03-3988-8668
【営業時間】 9:00～17:00 (土日祝日、年末年始を除く)

ごあいさつ

当ファンドの第11期は、振り返ると年間を通じて概ね右肩上がりでもコンスタントに基準価額は上方修正を続け、決算期末は設定来最高値に至り年間騰落率は+11.3%と巡行速度を超えるリターンを享受出来ました。

前期には英EU離脱や米大統領選のトランプ氏勝利など、マーケットにとって想定外の事象が現出して、2017年はその不確実性がグローバルに政治・経済を揺さぶる可能性と常に金融市場は対峙しながらも、結果的には世界経済全体がリーマンショック前以来久し振りに安定した成長軌道を回復する年となりました。

世界経済はITの劇的進化が生活レベルに浸透し始めて、AIやIoTといった新たなテクノロジーが複数のイノベーション実現を促すライフスタイル革命期に入ったのです。そこでは産業界の事業ヒエラルキーが抜本的に構造転換し、伝統的ものづくりとは別次元の、コトづくりとも言える新たな価値創造産業の勃興が始まったばかりなのです。

そこに併せて変化し始めているのが、事業に携わる労働者の働き方の大転換であり、IT情報革命の進展が仕事の仕方を変え、生活の仕方が変わり、消費スタイルが変化する、一方では全く新しい産業が創出される、それらを支える新たなエネルギーが普及する等々、21世紀グローバル化社会は間違いなく次の成長ステージに入ったと言えます。

世界の金融市場はそうしたパラダイムシフトへの大きな成長期待に、リーマンショック以降の日米欧金融緩和で溢れたマネーが相乗して、年間を通じて株高が進行したわけです。

更には新産業革命が伝統的物価上昇サイクルを覆して、世界的低インフレの環境に導かれたことによる低金利の継続が「適温相場」となって、株高・債券高の併存というイレギュラーな好循環に支えられた第11期のマクロ環境でした。

金融市場は今後も期待とその行き過ぎに対する調整を繰り返すに違いありませんが、長期的には地球規模のメガトレンドが世界経済の成長軌道をより堅固で安定させる源泉となるはずで、当ファンドはそうした長期に亘る大河の流れに自然体で乗って、地球経済と共にお金が育つ前提のポートフォリオ戦略を継続してまいります。

お蔭様で、当期中に当該純資産残高は276億円増加して約1,540億円となり、国内最大規模の長期国際分散型バランスファンドに成長しております。長距離列車「セゾン号」乗客の皆さまには、長期投資の旅を続けていただいていることに乗務員一同感謝申し上げますと共に、第11期の運用状況を報告させていただきます。

代表取締役社長 中野 晴啓

運用担当者の紹介

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンドは、ファンド・オブ・ファンズの仕組みを活用して、世界の優れたリソースを活用しながら、日本の生活者の方の長期の資産形成に資することができるよう、不確実な市場の予想に頼ることなく、長期的なリターンと幅広い分散によるリスクの軽減を重視して、チームで運用を行っています。

代表取締役社長、CIO(チーフインベストメントオフィサー)

中野 晴啓

主な役割

運用の基本的な方向性の指示

運用経験年数 27年

経歴

1987年 明治大学商学部卒業

1987年 株式会社クレディセゾン入社。セゾングループの金融子会社にて債券ポートフォリオを中心に資金運用業務に従事した後、投資顧問事業を立ち上げ運用責任者としてグループ資金の運用のほか外国籍投資信託をはじめとした海外契約資産等の運用アドバイスを手がける。その後、2006年セゾン投信を設立。2007年4月から現職。



運用部長、ポートフォリオマネジャー

瀬下 哲雄

主な役割

運用方針の決定、資産配分比率の決定、キャッシュフローの管理

運用経験年数 11年

経歴

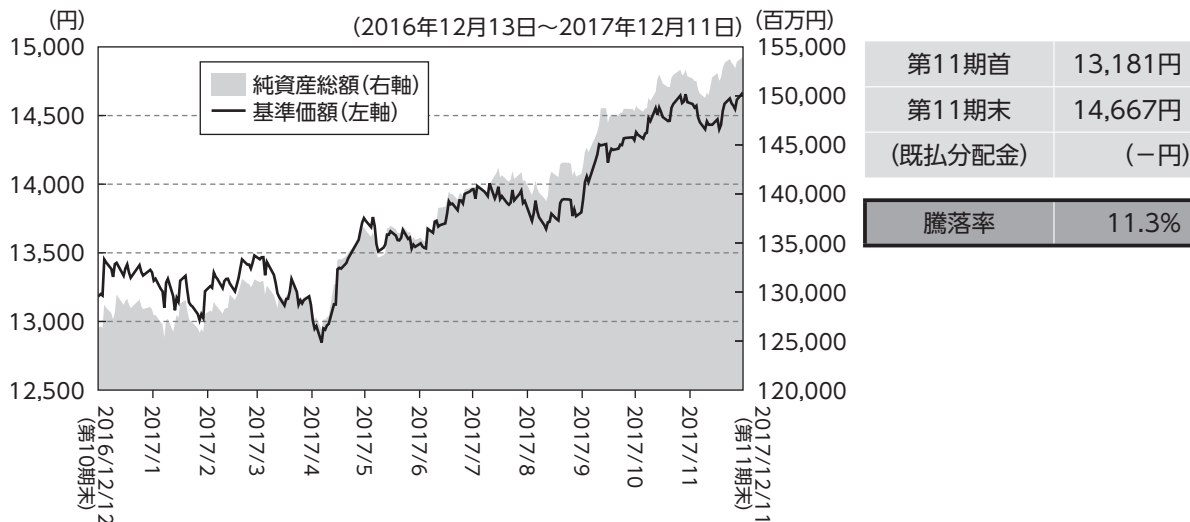
1996年 上智大学経済学部経営学科卒業

2006年 セゾン投信入社、2007年3月のファンド設定時より運用を担当し、2011年よりポートフォリオマネジャー、2014年から現職。



運用経過の説明

期中の基準価額等の推移



- ・当ファンドには、ベンチマークはありません。
- ・分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- ・表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- ・上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

ここをCHECK!

【基準価額の主な変動要因】

当期は、株式に投資するファンドが全て上昇して基準価額の上昇要因となり、特に米国株式に投資するファンドが大きく上昇に寄与しました。債券に投資するファンドは、日本に投資するものを除いて上昇し、基準価額の上昇要因となりました。為替は対ドルで円高、対ユーロで円安となり、基準価額の上昇要因となりました。

< 基準価額のプラス要因 >

バンガード®・U.S.500ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
対ユーロでの為替レート (円安)
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (円)
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (米ドル)
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (ユーロ)
バンガード・パシフィック・エックス・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド (米ドル)

期中騰落率
11.3%

バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド (円)
対ドルでの為替レート (円高)

< 基準価額のマイナス要因 >

1万口当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2016年12月13日~2017年12月11日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	69円 (37) (26) (5)	0.499% (0.273) (0.188) (0.039)	(a) 信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ・委託した資金の運用の対価 ・交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 ・運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (監査費用) (その他)	0 (0) (0)	0.001 (0.001) (0.000)	(b) その他費用= $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・移転等に要する費用
合 計	69	0.500	

期中の平均基準価額は13,726円です。

- ・期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- ・各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- ・財産維持手数料は当期は発生しておりません。
- ・各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。
- ・各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。


ここをCHECK!

<参考情報>

“運用管理費”の期中平均比率は以下の通りとなりました。

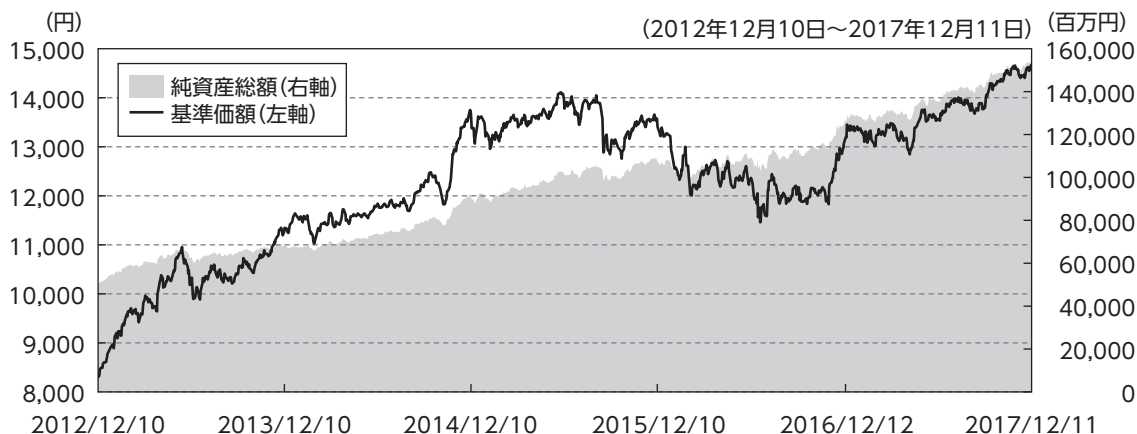
このファンドが組み入れている投資信託証券の運用管理費率(年率・税込)	0.176%
------------------------------------	--------

- ・投資している投資信託証券は個別の費用明細を開示していないものがあるため、費用総額を計算したものは記載することはできません。そのため、上記の比率は運用管理費率の概算であり、全ての費用が含まれた比率ではありません。
- ・投資している各投資信託証券の運用管理費率を組入比率で加重平均した、委託会社が計算した数値です。

投資家の皆さまの実質的な費用負担比率(年率・税込)	0.676%
---------------------------	--------

- ・当ファンドの1万口当たりの費用合計の比率と、このファンドが組み入れている投資信託証券の運用管理費率(概算)を合計したものです。
- ・当期の運用実績は、全ての費用を差し引いた後のものとなっております。

最近5年間の基準価額等の推移



	2012年12月10日 決算日	2013年12月10日 決算日	2014年12月10日 決算日	2015年12月10日 決算日	2016年12月12日 決算日	2017年12月11日 決算日
基準価額 (円)	8,309	11,347	13,561	13,406	13,181	14,667
期間分配金合計(税込) (円)	-	-	-	-	-	-
基準価額の騰落率 (%)	15.0	36.6	19.5	△1.1	△1.7	11.3
参考指数の騰落率 (%)	15.5	35.0	19.2	△0.4	0.4	11.4
純資産総額 (百万円)	50,473	68,517	90,887	107,188	126,394	153,979

- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・パークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組み合わせた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額の反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。
- ・騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- ・純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

ここをCHECK!

<参考情報>

当期末(2017年12月11日)と5年前(2012年12月10日)の比較は以下の通りです。

基準価額の騰落率(5年)	76.5%
参考指数の騰落率(5年)	79.3%
純資産額の増加額(5年)	103,505百万円

・騰落率は年率換算しておりません。

投資環境

【株式市場の概況】

米国では2016年12月に1年振りとなる政策金利の引き上げ行われ、2017年に入ってから緩やかな政策金利の引き上げが続くと共に、10月からは量的緩和策の縮小が開始され、ユーロ圏でも4月から量的緩和策の拡大規模が縮小されるなど、米国や欧州では金融緩和策の縮小に向けた動きが続いているものの、物価が低迷していることから金融緩和環境が長期間維持されるとの見方が広がりました。

そのなかで、米国や欧州での政治的な混乱への警戒や、北朝鮮情勢を巡る緊張の高まりを受けて軟調に推移する局面もあったものの、米国では減税や規制緩和による景気刺激策への期待が高まったほか、ユーロ圏でも企業の景況感の改善が確認され、先行きに対する明るい見方が広がったことから、リスク選好が強まって1年を通じて上昇基調で推移しました。また、金融緩和環境の長期化観測を背景とした株式市場の上昇が続いていることを受けて、割安と見られる投資先が少なくなってくるなかで、成長への期待が高まっている情報技術関連企業の株価が大きく上昇して市場全体を押し上げたほか、9月以降、日本の株式市場の相対的な割安感に注目が集まり、資金が流入して大きく上昇するなど、少しでも有望な投資先を見つけようとして資金が集中する動きが見られました。

セクター別では、技術革新への期待が高まったことを受けて、情報技術セクターが大きく上昇する一方で、エネルギーシフトによる需要の低下に対する警戒が強まってエネルギーセクターが弱い動きとなりました。

【国債市場の概況】

米国では、2016年12月に開催された連邦公開市場委員会(FOMC)で1年振りに政策金利の引き上げが再開され、2017年に入ってから3月と6月に政策金利が引き上げられると共に、10月からは量的緩和の為に保有している資産規模の縮小が開始されたものの、物価の低迷が続いており、当局者からも物価の低迷が一時的な事象ではない可能性が指摘されていることから、2018年以降の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がり、上昇しました。

ユーロ圏では4月から量的緩和の拡大規模が縮小され、10月に開催された欧州中央銀行(ECB)理事会では2018年1月から一段と拡大規模を縮小することを決定したものの、量的緩和の拡大を少なくとも2018年の9月まで継続することを決定したほか、量的緩和の拡大が継続している間は政策金利の引き上げを行わない方針を示したことから、安心感が広がってイタリアなど周縁国の国債を中心に上昇しました。

日本では、物価の低迷が続くなかで、日本銀行が2016年9月に導入した「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続して実施しているものの、金融緩和策の副作用や限界が意識され、更なる緩和拡大が見込みづらい状況となっていることから、方向感の無い展開でした。

【為替市場の概況】

ドルは、米国経済の先行きに対する明るい見方が維持されるなかで、緩やかながら継続的に政策金利が引き上げられ、10月には量的緩和の為に保有している資産規模の縮小が開始されたものの、物価が低迷していることを受けて、2018年以降の政策金利の引き上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がり、下落しました。

ユーロは、域内景気の先行きに対する明るい見方が広がったほか、4月から量的緩和の拡大規模が縮小され、10月には2018年1月からさらに拡大規模を縮小することが決まったことから、量的緩和の拡大が終了に向かうとの見方が広がり、上昇しました。

円は、金融緩和策の副作用や限界が意識され、金融緩和の拡大観測が後退したものの、リスク選好が強まったことを受けてやや軟調な展開が続く、対ドルでは円高となったものの、対ユーロで円安となりました。

当ファンドの運用経過と結果

当期も引き続き、定期積立プランなどのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して定められた投資比率に従って各ファンドへの投資を行い、株式と債券の比率が乖離した局面では、比率の高まったファンドを売却し、比率の低下したファンドを購入することにより、リバランスを行いました。

当期は、株式市場の上昇が続いたことから、相対的な組入比率が低下した債券ファンドを中心に投資を行いました。また、2016年12月と2017年10月には、株式市場の上昇を受けて相対的な組入比率が上昇した株式ファンドを売却し、債券ファンドを購入することによりリバランスを行い、結果としては、購入から売却を差し引いた純投資額のほぼ全額を債券ファンドが占めました。



ここをCHECK!

<参考情報>

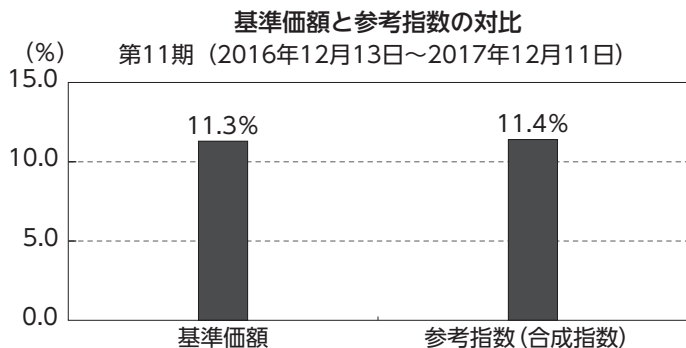
期中の売買及び取引の状況 (2016年12月13日から2017年12月11日)

投資証券		買付 金額	売付 金額
外 国 ア イ ル ラ ン ド	バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千円 119,800	千円 44,384
	バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	503,600	—
	バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	千米ドル 12,384	千米ドル 9,702
	バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	250	314
	バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	2,585	718
	バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	65,427	—
	バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	千ユーロ 1,212	千ユーロ 4,880
	バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	31,458	—

- ・金額は受渡し代金です。
- ・千単位未満は切り捨てて表示しております。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の当期の騰落率の対比です。



- ・当ファンドにはベンチマークがないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数のMSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)とブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：G7インデックスを50%ずつ組合せた、委託会社が計算した合成指数を参考指数として記載しております。
- ・参考指数は、基準価額への反映を考慮して、2営業日前のものに、当日のわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。

分配金

基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第11期
	2016年12月13日～2017年12月11日
当期分配金	-
(対基準価額比率)	-
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	6,254

- ・対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。原則として新規の流入資金を利用して、定められた投資比率に沿うように分散投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整を行います。

運用部長 瀬下 哲雄

お知らせ

当期中の約款変更について

2016年12月13日から2017年12月11日までの期間に実施した約款変更は以下の通りです。

●2017年3月11日付

信託報酬率を変更するため、「信託報酬等の額」を規定した条文に所要の変更を行いました。

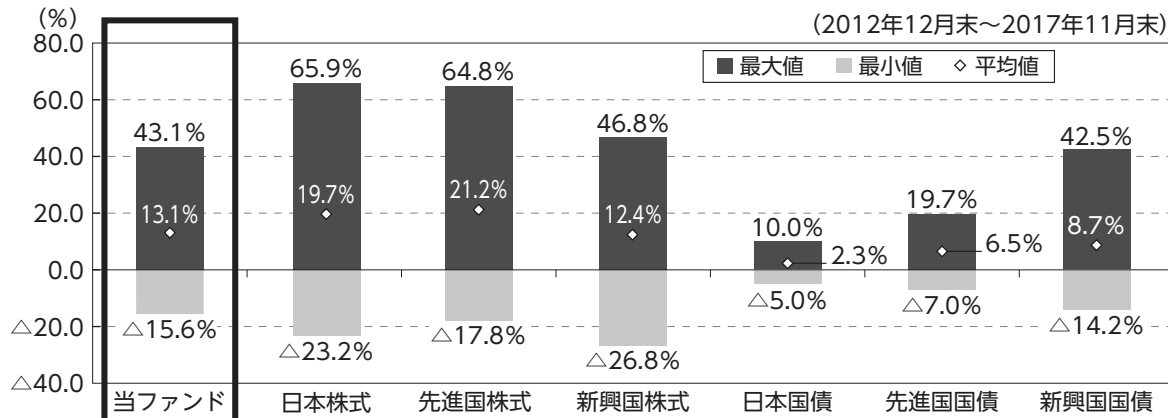
(参考情報)

変更前	信託財産の純資産総額×年0.47% (税抜)
変更後	信託財産の純資産総額×年0.46% (税抜)

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／資産複合
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	<p>信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、主として米国バンガード社が運用するインデックスファンドの中から資産規模、運用実績、コストなどの面から厳選したファンドに分散投資します。具体的な資産配分は運用状況ならびに市場状況に応じて随時変更(増減ならびに入替など)します。</p> <p>原則として、為替ヘッジは行いません。</p>
主 要 投 資 対 象	有価証券に投資する外国投資証券を投資対象とします。
運 用 方 法	<p>当ファンドの運用は、ファンド・オブ・ファンズ方式とし、米国バンガード社が設定したインデックス型の外国投資証券への投資を通じて、世界各国の株式および債券に実質的に分散投資します。</p> <p>株式と債券の基本資産配分比率は、原則として株式50%、債券50%とします。</p> <p>株式、債券の地域別配分比率は、それぞれの市場時価総額を勘案して行います。</p>
分 配 方 針	<p>毎決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。</p> <p>信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき運用を行います。</p> <p>当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、税金を差し引いた後、再投資されます。</p>

(参考情報) 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・2012年12月から2017年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- ・上記の騰落率は、直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり決算日に対応した数字とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株式：MSCI ジャパン・インデックス(配当込)
 先進国株式：MSCI ワールド・インデックス(配当込)
 新興国株式：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込)
 日本国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：日本インデックス
 先進国国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：G7インデックス
 新興国国債：ブルームバーグ・バークレイズ新興市場自国通貨建て国債インデックス

- ・全ての指数は米ドル建てのものをわが国の対顧客電信売買仲値を利用して円換算しております。

- ・MSCIジャパン・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、日本の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)は、MSCIが開発したインデックスであり、世界の先進国および新興国の株式で構成されています。当該インデックスに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
- ・ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入れ資産の内容

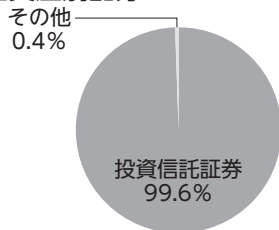
(2017年12月11日現在)

■組入ファンド

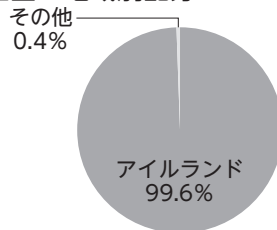
	第11期末(2017年12月11日)
	組入比率
バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	27.4%
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	24.6%
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	18.8%
バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	10.7%
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	6.2%
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	5.9%
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	4.0%
バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.0%
その他(短期金融資産等)	0.4%
組入ファンド数	8銘柄

- ・組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。
- ・詳細は、運用報告書(全体版)に記載しております。
- ・小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

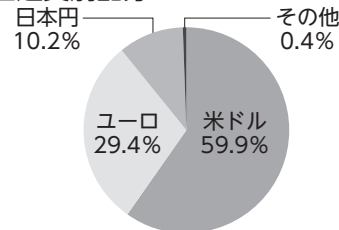
■資産別配分



■国・地域別配分



■通貨別配分



- ・国・地域別配分は、投資しているファンドの発行国を表示しております。
- ・通貨別配分のその他は、短期金融資産等です。
- ・小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

ここをCHECK!

投資対象別に分類した組入資産の状況

■資産別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
株式を中心に投資するファンド	50.0%	5銘柄
債券を中心に投資するファンド	49.6%	3銘柄
その他(短期金融資産等)	0.4%	-
合計	100.0%	8銘柄

■地域別配分

投資対象	組入比率	ファンド数
米国を中心に投資するファンド	52.1%	2銘柄
欧州を中心に投資するファンド	29.4%	2銘柄
日本を中心に投資するファンド	10.2%	2銘柄
太平洋(日本を除く)を中心に投資するファンド	2.0%	1銘柄
新興国を中心に投資するファンド	5.9%	1銘柄
その他(短期金融資産等)	0.4%	-
合計	100.0%	8銘柄

- ・詳細は、「組入ファンドの概要」をご参照ください。
- ・小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、合計が一致しない場合があります。

純資産等

項 目	第11期末
	2017年12月11日
純 資 産 総 額	153,979,082,281円
受 益 権 総 口 数	104,983,634,843口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	14,667円

・期中における追加設定元本額は20,558,025,030円、同解約元本額は11,464,552,770円です。



ここをCHECK!

・純資産等の前期末の状況は以下の通りです。

項 目	第10期末
	2016年12月12日
純 資 産 総 額	126,394,783,321円
受 益 権 総 口 数	95,890,162,583口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	13,181円

・期中における金額ベースの追加設定額は28,175,740,758円、同一部解約額は15,738,620,865円です。結果、当期は差し引き12,437,119,893円の資金流入となりました。

組入ファンドの概要

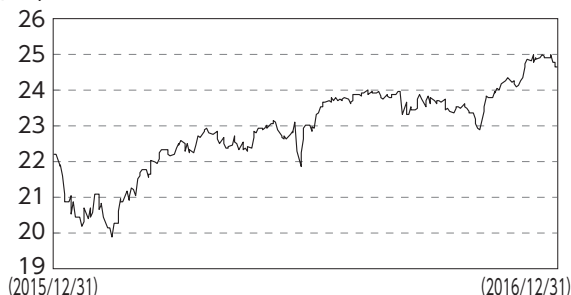
以下は当ファンドが投資対象としているバンガード社のファンドの現況です。詳細な内容につきましては運用報告書(全体版)に記載しております。

なお、以下の各項目の注記につきましては、20頁をご参照ください。

1. バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(米ドル)



■費用明細

(2016年12月31日現在)

ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.10

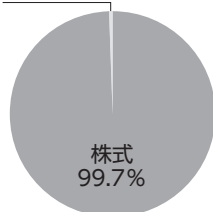
■組入上位10銘柄

(2016年12月31日現在)

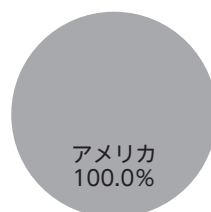
	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	Apple Inc.	アメリカ	情報技術	3.2
2	Microsoft Corp.	アメリカ	情報技術	2.5
3	Alphabet Inc.	アメリカ	情報技術	2.4
4	Exxon Mobil Corp.	アメリカ	エネルギー	1.9
5	Johnson & Johnson	アメリカ	ヘルスケア	1.6
6	Berkshire Hathaway Inc.	アメリカ	金融	1.6
7	JPMorgan Chase & Co.	アメリカ	金融	1.6
8	Amazon.com Inc.	アメリカ	一般消費財・サービス	1.5
9	General Electric Co.	アメリカ	資本財・サービス	1.4
10	Facebook Inc.	アメリカ	情報技術	1.4
組入銘柄数		506銘柄		

■資産別配分

その他
0.3%



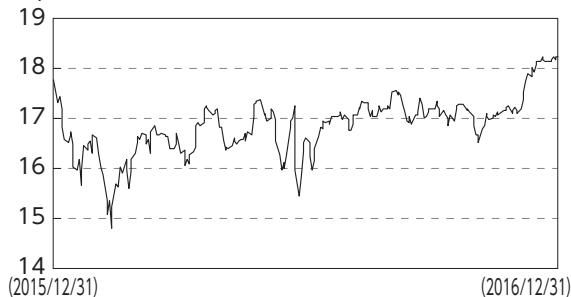
■国・地域別配分



2. バンガード・ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(ユーロ)



■費用明細

(2016年12月31日現在)

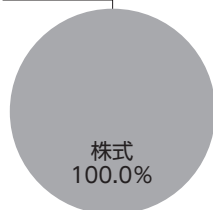
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率)(%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.30

■組入上位10銘柄

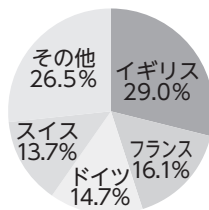
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	Royal Dutch Shell plc	オランダ	エネルギー	3.0
2	Nestle SA	スイス	生活必需品	2.9
3	Novartis AG	スイス	ヘルスケア	2.1
4	HSBC Holdings plc	イギリス	金融	2.1
5	Roche Holding AG	スイス	ヘルスケア	2.1
6	Unilever	イギリス	生活必需品	1.5
7	BP plc	イギリス	エネルギー	1.5
8	TOTAL SA	フランス	エネルギー	1.5
9	British American Tobacco plc	イギリス	生活必需品	1.4
10	Siemens AG	ドイツ	資本財・サービス	1.2
組入銘柄数			463銘柄	

■資産別配分

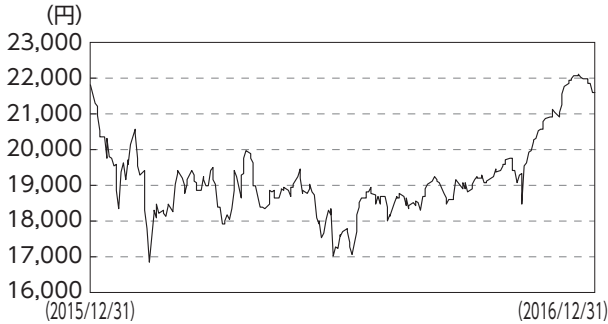
その他
0.0%

■国・地域別配分



3. バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2016年12月31日現在)

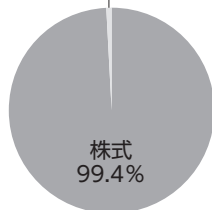
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.23

■組入上位10銘柄

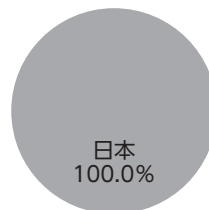
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率(%)
1	トヨタ自動車(株)	日本	一般消費財・サービス	5.3
2	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	金融	2.7
3	ソフトバンクグループ(株)	日本	電気通信サービス	2.2
4	(株)三井住友フィナンシャルグループ	日本	金融	1.7
5	本田技研工業(株)	日本	一般消費財・サービス	1.6
6	KDDI(株)	日本	電気通信サービス	1.6
7	(株)みずほフィナンシャルグループ	日本	金融	1.5
8	日本たばこ産業(株)	日本	生活必需品	1.2
9	ソニー(株)	日本	一般消費財・サービス	1.2
10	(株)キーエンス	日本	情報技術	1.1
組入銘柄数			319銘柄	

■資産別配分

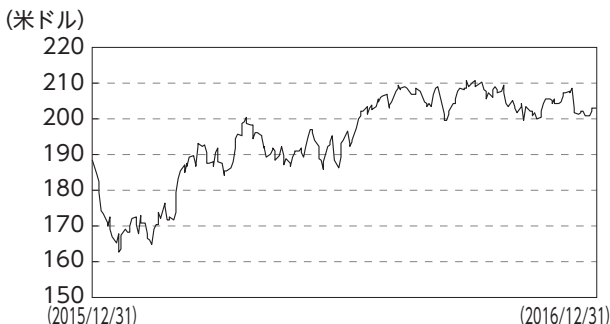
その他
0.6%

■国・地域別配分



4. バンガード・パシフィック・エックスジャパン・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2016年12月31日現在)

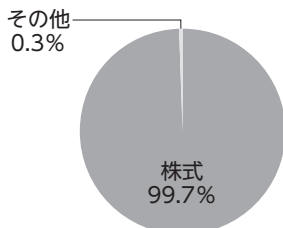
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.23

■組入上位10銘柄

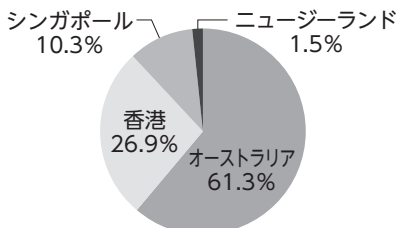
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率 (%)
1	Commonwealth Bank of Australia	オーストラリア	金融	6.9
2	Westpac Banking Corp.	オーストラリア	金融	5.3
3	AIA Group Ltd.	香港	金融	4.6
4	Australia & New Zealand Banking Group Ltd.	オーストラリア	金融	4.4
5	National Australia Bank Ltd.	オーストラリア	金融	4.0
6	BHP Billiton	オーストラリア	素材	3.9
7	Wesfarmers Ltd.	オーストラリア	生活必需品	2.3
8	CSL Ltd.	オーストラリア	ヘルスケア	2.2
9	CK Hutchison Holdings Ltd.	香港	資本財・サービス	2.1
10	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd.	香港	金融	1.8
組入銘柄数			152銘柄	

■資産別配分

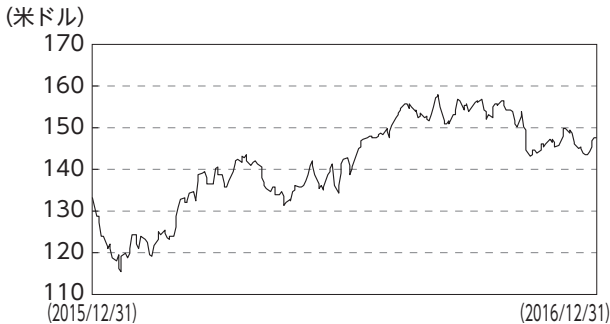


■国・地域別配分



5. バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2016年12月31日現在)

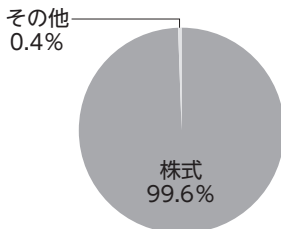
ファンド財産維持手数料率		運用管理费率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.27

■組入上位10銘柄

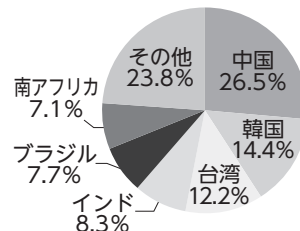
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	業種	投資比率 (%)
1	Samsung Electronics Co. Ltd.	韓国	情報技術	4.3
2	Tencent Holdings Ltd.	中国	情報技術	3.5
3	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	台湾	情報技術	3.5
4	Alibaba Group Holding Ltd.	中国	情報技術	2.5
5	China Mobile Ltd.	香港	電気通信サービス	1.6
6	China Construction Bank Corp.	中国	金融	1.6
7	Naspers Ltd.	南アフリカ	一般消費財・サービス	1.6
8	Baidu Inc.	中国	情報技術	1.1
9	Industrial & Commercial Bank of China Ltd.	中国	金融	1.1
10	Hon Hai Precision Industry Co. Ltd.	台湾	情報技術	1.0
組入銘柄数			845銘柄	

■資産別配分

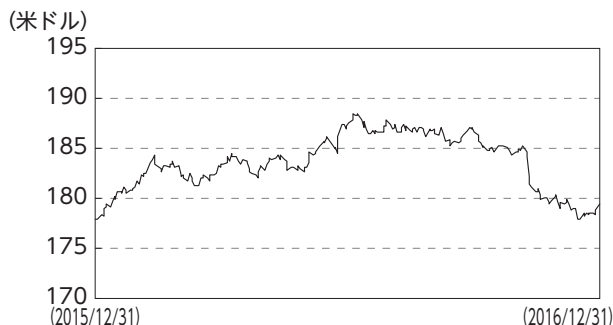


■国・地域別配分



6. バンガード・U.S.ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2016年12月31日現在)

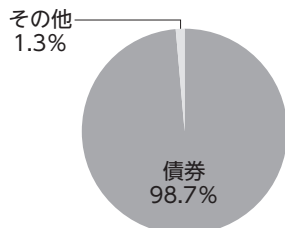
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.20

■組入上位10銘柄

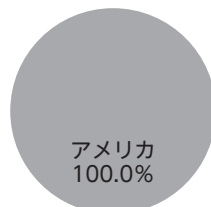
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	0.875	2019/5/15	1.72
2	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	1.625	2023/4/30	1.72
3	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	1.375	2021/4/30	1.48
4	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	1.000	2018/11/30	1.48
5	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	0.750	2018/4/30	1.47
6	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	1.375	2019/12/15	1.45
7	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	1.750	2021/11/30	1.43
8	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	0.750	2018/1/31	1.24
9	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	0.875	2019/4/15	1.08
10	US TREASURY N/B	アメリカ	国債証券	2.125	2023/11/30	1.07
組入銘柄数			352銘柄			

■資産別配分



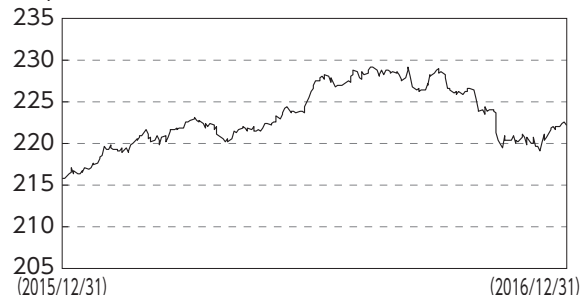
■国・地域別配分



7. バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移

(ユーロ)



■費用明細

(2016年12月31日現在)

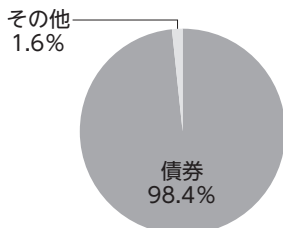
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.20

■組入上位10銘柄

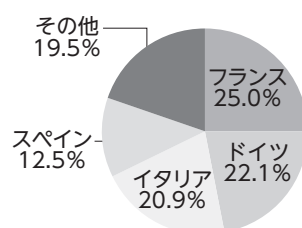
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	1.750	2023/5/25	1.12
2	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	5.750	2032/10/25	1.04
3	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	2.750	2027/10/25	0.86
4	BUNDESOBLIGATION	ドイツ	国債証券	0.000	2021/10/8	0.84
5	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	4.500	2041/4/25	0.84
6	BUNDESREPUB.	ドイツ	国債証券	0.000	2026/8/15	0.74
7	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	1.750	2024/11/25	0.68
8	FRANCE (GOVT OF)	フランス	国債証券	3.500	2020/4/25	0.66
9	BUONI POLIENNALI	イタリア	国債証券	1.050	2019/12/1	0.66
10	BUNDESREPUB.	ドイツ	国債証券	3.250	2020/1/4	0.66
組入銘柄数				704銘柄		

■資産別配分

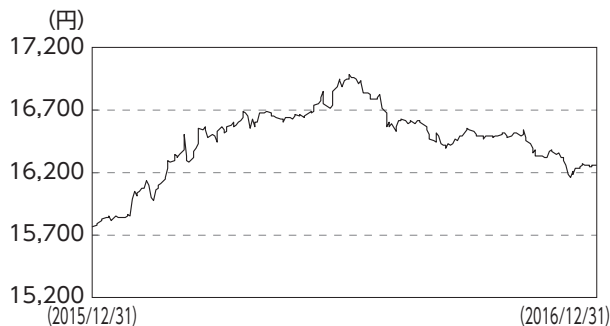


■国・地域別配分



8. バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

■基準価額の推移



■費用明細

(2016年12月31日現在)

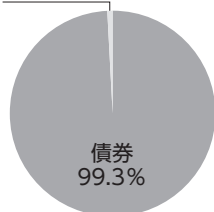
ファンド財産維持手数料率		運用管理費率 (年率) (%)
購入時	解約時	
なし	なし	0.20

■組入上位10銘柄

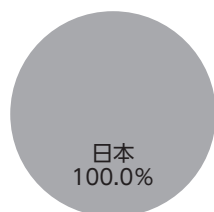
(2016年12月31日現在)

	銘柄名称	国・地域	証券種別	利率 (%)	償還年月日	投資比率 (%)
1	第128回利付国債 (5年)	日本	国債証券	0.100	2021/6/20	2.94
2	第365回利付国債 (2年)	日本	国債証券	0.100	2018/6/15	2.24
3	第129回利付国債 (5年)	日本	国債証券	0.100	2021/9/20	2.20
4	第127回利付国債 (5年)	日本	国債証券	0.100	2021/3/20	2.17
5	第344回利付国債 (10年)	日本	国債証券	0.100	2026/9/20	1.79
6	第117回利付国債 (5年)	日本	国債証券	0.200	2019/3/20	1.40
7	第341回利付国債 (10年)	日本	国債証券	0.300	2025/12/20	1.34
8	第343回利付国債 (10年)	日本	国債証券	0.100	2026/6/20	1.30
9	第321回利付国債 (10年)	日本	国債証券	1.000	2022/3/20	1.16
10	第342回利付国債 (10年)	日本	国債証券	0.100	2026/3/20	1.16
組入銘柄数		400銘柄				

■資産別配分

その他
0.7%

■国・地域別配分



- ・作成時点において、入手可能な各ファンドの直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。
- ・費用明細に記載されている運用管理費率とは、平均純資産総額に対する運用及び管理等にかかる費用の総額の比率を示したものです。
- ・組入上位10銘柄の投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率です。
- ・資産別配分は、ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・国・地域別配分は、ファンドの投資資産に対する比率です。
- ・通貨別配分については、開示されていないため記載しておりません。
- ・株式の業種は、世界産業分類基準(GICS)による分類です。

[Vanguard] (日本語での「バンガード」を含む) 及び [tall ship logo] 商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社及び承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。

また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd. より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。

従って、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd. は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

本書では、各投資対象ファンドを以下の通りに省略して記載することがありますのでご了承ください。

バンガード・U.S.500ストック・インデックス・ファンド	→ U.S.500ストック及びU.S.500ストック・インデックス・ファンド
バンガード・ヨーロッパン・ストック・インデックス・ファンド	→ ヨーロピアン・ストック及びヨーロッパン・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ストック及びジャパン・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	→ パシフィック・エクスジャパン・ストック及びパシフィック・エクスジャパン・ストック・ファンド
バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	→ エマージング・マーケット・ストック及びエマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ U.S.・ガバメント・ボンド及びU.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ユーロ・ガバメント・ボンド及びユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	→ ジャパン・ガバメント・ボンド及びジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド

TOPICS：《当社の直接販売の状況 第11期（2016年12月13日～2017年12月11日）》

○ 当期のふりかえり

2017年 3月	ファンド設定10周年
3月	運用管理費用（信託報酬）の引き下げ
10月	つみたてNISA対象商品として両ファンドを届出し、受付を開始
10月	純資産総額 2,000億円
11月	お客さま口座数 13万口座

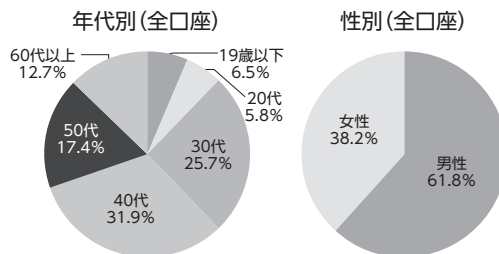
○ 2017年12月11日現在 お客さま口座数 130,177件(前期比+12.0%)

米国を中心とした世界的な株高の期間と重なり、当社の直接販売の口座数も増加しました。お客さまはこの1年間で13,948名増え、前期間の増加数とほぼ同じ水準でした。
(前期間末のお客さま口座数116,229件、前期間の口座増加数+14,377件)

○ お客さまの特徴

年代別は「資産形成層」の30代～40代が57.6%と大きな割合を占めています。

性別の構成は女性比率が更に高まり、前期から1.4%増え38.2%になりました。



○ ファンドの設定・解約の状況

前期間から引き続き、当期間も純資金流入が毎月継続しました。純資金流入額は161.4億円となり、開業来最多額となった前期間の金額(271.6億円)を下回りました。追加設定額は前期間を上回り高水準で推移しましたが、一部解約額が前期間を上回ったため、純資金流入額が減少しました。

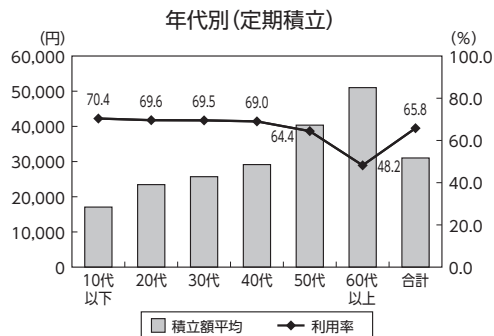
(当社ファンドの合計、金額ベース)

○ 定期積立プラン

当サービスの利用率は65.8%となっております。

前期から引き続き、当サービスを継続して高い割合でご活用いただいています。また、積立額の平均は31,016円でした。

・定期積立プランは、当社が運用、販売するファンド2種類のいずれか、もしくは両ファンド定期積立サービスをご利用いただいている方を対象としてデータを作成しています。また積立額平均、利用率は2017年12月時点の数値であり、積立額の平均は増額月の増額分の金額を含まない平均値です。



安定して新しいお客さまが増え、純資産残高も大きく伸長した1年となりました。これも皆さまのおかげと深く感謝しております。これからも投資家の皆さまと共に長期で成長する会社であり続けるため、一つ一つのこだわりを大切に、お客さまのためのサービス提供に努めてまいります。

※お客さまの特徴や口座、金額は、保有しているファンドの種類や有無に関係なく、当社に口座を開設していただいている直接販売のお客さまを集計したものととなります。

※金額は、明記されたものを除き当社が運用、販売するファンド2種類を合計した数値となっております。